

平成22年5月7日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520534

研究課題名（和文）南京国民政府成立前後の党国体制の浸透と地域社会の変容

研究課題名（英文）Transformation of infiltration and regional society of Chinese National Party power before and after Nanjing National Government

研究代表者

田中 比呂志（TANAKA HIROSHI）

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：90269572

研究成果の概要（和文）：本研究では、1920年代から1930年代中葉（日中戦争前）に到る間の中国江南社会を主要な検討対象とし、南京国民政府の成立前後において国家建設が進められる中で、国家が社会に対して如何にしてその支配を浸透させようとしたのか、そして他方、地域社会はそのような国家支配の浸透に対してどのように対応したのか、すなわち、国家と地域社会とが如何なる秩序を形成したのかを、実証的に検討した。そして、上述のような実証研究を通じて、さらに、地域社会がどのように党国体制に包摂されていったのか、あるいは党国体制に包摂されつつもどのように自律性を確保していったのかを検討した。

研究成果の概要（英文）：

The examination object in the present study is a China Jian nan(江南) society from 1920's to 1930's. How did the nation try to be done to the society while the nation-building's being advanced before and after the approval of a Nanjing National Government and infiltrated the rule? On the other hand, how did the regional society respond to the infiltration of such national rule? That is, whether the nation and the regional society had formed any order was empirically examined. The regional society very was subsumed or examined autonomy how in the party national constitution system though was subsumed and examined whether to have secured it in addition through the experimental study and like the above-mentioned the party national constitution system.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,500,000	630,000	4,130,000

研究分野：史学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：地域エリート、中国国民党、南京国民政府、江蘇省、地域社会

1. 研究開始当初の背景

平成 13～16 年度にかけて、文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (2) 研究課題「清末民初における地方エリートの地域発展戦略の史的的研究」を実施した結果、清末民初期の同行に関して明らかにすることができた。その成果の延長として本研究を着想した。そして具体的には清末民初期に続く 1920 年代から 1930 年代中葉に至までの時期の江南社会や江南地域エリートの動向を主たる検討対象として設定するに到った。

2. 研究の目的

本研究は、本研究の直前に採択された研究課題であるところの「清末民初における地方エリートの地域発展戦略の史的的研究」(研究課題番号：13610416) の研究成果とそれによって新たに明らかになった課題の解決を目指そうとするものである。具体的には、1920 年代後半から 1930 年代中葉 (日中戦争前) に到る間の中国江南社会を主要な検討対象とする。当該時期に於いては南京国民政府が成立し、同政府は中華民国の再統合を目指していく。その最も重要な課題は各地に割拠する地方勢力を打破するとともに、地域社会を如何に統合していくかに在ったと言えるだろう。別言するならば「党国体制」の完成にあったといってもよいだろう。党組織を地域社会に如何にして浸透させていくかが重要な課題であった。そこで、本研究の目的の第一は、上述したように党組織がどのような経緯で地域社会において組織され、どのような人々が組織を担っていったのかを具体的に検討し、明らかにすることである。

本研究の目的の第二は、地域社会の動向である。上述したように、国家＝党組織の浸透・支配に対して、地域社会はいったいどのように対応したのか、を具体的に検討することである。その対応の仕方は無視、一部無視、あるいは棲み分け、妥協、全面的受容など、様々な対応が予想できる。これは別言するならば、国家と社会とが如何なる秩序を形成したのかを、実証的に検討しようとするものである。そして、実証的検討を通じて地域社会がどのように党国体制に包摂されていったのか、あるいは党国体制に包摂されつつもどのように自律性を確保していったのかを検討し、地域社会論的視角と党国体制的視角とを統一的に理解するための視座の獲得を模索しようとする点にある。

本研究の目的の第三には、地域社会の連続性の問題である。清末民初に積極的に活動した地域エリートらは、その後、地域社会の中で如何なる活動を行っていくのか、とりわけ、上述の党国体制の浸透の中で、地域エリートらの活動領域が変更、あるいは限定的になった可能性がある。もしそうだとすれば、いったいどのような分野において活動を継続していくことになったのか。それらを具体的に検討することが必要である。

3. 研究の方法

本研究を遂行するにあたり、具体的には以下のような方法・手順を進めていくことにした。

第一に、南京国民政府の地方統治政策の対象となった江南地域の政治・社会状況について検討を進める。具体的には、1920 年代前半において江南地域エリート等が中心となって展開した連省自治運動期の江南社会について検討を進める。なぜならば、この時期は清末期と、南京国民政府時期とを媒介する時期であり、これまでに十分に検討がなされなかった時期でもあるからである。

連省自治運動に関しては、周知のように、湖南・浙江の事例が著名で、先行研究も比較的多くなっている。しかしながら、これまでほとんど検討されてはいない江蘇省においても省自治の実現を目ざして地域エリートらは活発に運動を展開した。彼等は、国家建設との関わりにおいて、省自治・地方自治を如何なるものと認識していたのか、また、他方、地域社会内部の大衆・民衆を如何なる存在として認識していたのか、彼等の世界観、秩序意識にはいったい如何なる特徴が見られるのか、について検討を進める。具体的には省自治・地方自治を推進するために江蘇地域エリートらが結成した蘇社という組織の検討を通じて明らかにする。蘇社は張謇をはじめとする江蘇省地域エリート、とりわけ江蘇省議会の議員などが多数参加していた組織である。蘇社の活動や彼らが発表した論文や発刊した雑誌などを主要な手がかりとして、検討する。また、本研究の内容と深く関わる研究書 (金子肇著『近代中国の中央と地方』、汲古書院、2008 年) が出版されたので、併せて検討する。

第二に、江蘇各地域において、国民党組織がどのようにして結成され、どのような人々をリクルートしつつ地域社会に基盤を形成

していったかを明らかにする。その際に、上海という都市の存在が大きな意味を持つと思われる。私見によれば、江南では中国国民党結成に参集した地域エリートは、明らかに清末民初期に地方自治実現を旨として様々な活動を展開した地域エリートとは異なる世代だと言っても過言ではない。そこで、地域社会における中国国民党の形成過程を検討すると共に、それまでの地域エリートらが、新しい秩序の中で如何なる役割を担っていくことになったのかを明らかにして、党＝国家と、地域社会との関係性を考察する。また、を新たなる組織が浸透する際に、どのような人々が排除されていったのか、も検討しておく必要がある。

第三に、中央政権が樹立された後、政権がどのようにして地域社会にその政策を浸透させようとし、それに対して地域社会がどのように応答したのかを検討する。これは、具体的には、地方誌編纂事業を素材として検討する。中華民国成立後において、地方誌編纂事業は清代のそれを継承する形で継続された。では、民国期の編纂事業はどのような行政系統を通じて地域社会において実施されることになったのか、地域社会の如何なる情報を調査対象として情報収集（＝地域社会の把握）が進められようとしたのか。また、各地域において地方誌編纂に具体的に従事したのは、どのような人々だったのか、その経費はどのようにして準備されたのか、を明らかにして、国家と地域社会との関係性を考察する。

4. 研究成果

4年間にわたる研究に関しては次のとおりである。本研究では、綿密な史料収集を行い、それに基づいて成果を上げるべく進展させた。史料収集の状況に関しては、1910年代末から1930年代にかけての新聞史料（地方新聞を含む）、雑誌、調査報告書、国民党刊行物、国民政府刊行物、地方志、あるいは当該年代に刊行された単行本など、当初に必要なと思われる史料は順調に収集することができたように思われる。

そして、収集した史料の閲読・分析については、マイクロフィルム形式の史料やデジタルカメラを使用して入手した史料の分析は、他の紙媒体の史料に比べて手間がかかるため、若干の史料の閲読・分析が未消化である。しかし、全体としては概ね予定通り進めることができた。

また、図書館などにおいて必要としていた史料の検索を実施した際に新たに見つけ出した史料も閲読・収集することができた。ことは大きな成果だったと思われる。

さらに、研究開始以後に出版された（流通の関係もある）研究書を入手して、検討する

ことができた。

なお、本研究の遂行中に、本研究と関係の深い研究書（金子肇著『近代中国の中央と地方』、汲古書院、2008年）が出版されたので、これを詳細に検討して、批評を行った（書評は「金子肇著『近代中国の中央と地方』、『歴史学研究』865号、46～49頁、2010年3月に掲載）。

これらの結果、1910年代後半から1920年代中葉にかけて、地域エリートの交代がすすみ、これらは単なる世代交代ではなく、文化的価値意識の異なった人々が登場するようになり、中国国民党の地方組織に参加していったこと、また、国民政府成立後には官僚組織と政党組織の二重の支配系統が作られていったこと、その官僚組織はより高度な学歴主義的性質を帯びていくようになったことなどが明らかになった。いわゆる専門家と言われるような人々の登場と言ってもよいだろう。この点においては、断絶性が著しいと言えるだろう。党組織に参加していった新しいエリートらは、それ以前のエリートらを「土豪劣紳」というようなレッテルを貼り、打破していく姿勢を示す場合もあった。

また、国民党組織の設立、展開に関して、江南地域においては、新たなる組織の準備組織は上海租界に設けられ、それを拠点として地方組織の設立準備活動が進められていったことを明らかにした。世代交代の対象となった清末民初の地域エリートらは、国民党統治下においては、行政部門からは退場を余儀なくされたが、教育セクションに残留して地方自治の一翼を引き続き担っていった事も明らかにした。すなわち、この点においては、一部分ではあるが連続性が見られるわけである。

また、民国期以降の地方志編纂の状況を検討した結果、民国前期においても、あるいは日中戦争後においても、いずれも中央政権が統一的に地方志の項目の雛形を作成し、地域社会がそれに対応する形で地方志編纂に着手していった状況を確認できた。そして、注目すべきは、民国期に編纂された地方志には、清末民初において実施された地方自治に積極的に参加して成果をあげた人々を顕彰するものが少なくなく、地域社会においては人々の連続性が濃厚に意識されていることを明らかにすることができた。

以上の成果は、党国体制の構造の解明に一定の貢献を果たしたとともに、目下の所内外の研究成果においては研究蓄積の少ないところであることから、今後の研究の進展に対して、一定の貢献を果たすことができると思われる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① 田中比呂志「地域社会の構造と変動」、『シリーズ 20 世紀中国史』第二巻、査読有、東京大学出版会、2009、37～55 頁
- ② 田中比呂志「近代中国における政治統合の模索：中央集権か地方分権か」、『中国経済研究』第 6 巻第 1 号 (通巻 9 号)、査読無し、2009、1～11 頁
- ③ 田中比呂志「北京政府期の江蘇省における地方自治運動と地域エリート—蘇社に関する覚書」、『東京学芸大学紀要 (人文社会学系 II)』60 集、査読無し、2009 年、85～97 頁
- ④ 田中比呂志「近代中国の国民国家構想とその展開」、久留島浩・趙景達編『アジアの国民国家構想—近代への投企と葛藤』、査読無し、青木書店、2008、117～147 頁
- ⑤ 田中比呂志「近代中国における地方史編纂についての覚書—民国期を中心として」『東京学芸大学重点研究費 (課題：東アジア社会近代化過程における地方史編纂と歴史教育に関する研究) 報告書』、査読無し、2007、17～21 頁
- ⑥ 田中比呂志「清末民初における地域エリートと社会管理の進展—江蘇省宝山区地域社会を例として」『東京学芸大学紀要 (人文社会学系 II)』58 集、査読無し、2007、55～67 頁

[学会発表] (計 5 件)

- ① 田中比呂志、「地方精英的立憲構想與地方自治論—以張謇為中心」、第五届張謇國際研討会、2009 年 4 月 18～19 日、中国江蘇省海門市
- ② 田中比呂志、「近代中国における「中央」と「地方」」、中国経済学会第 7 回大会報告、2008 年 6 月 22 日、一橋大学
- ③ 田中比呂志、「近代中国の国民国家構想—清末民初の地域エリート等の構想を中心として」、大学共同利用機関法人人間文化研究機構主催シンポジウム「アジアにおける国民国家構想」、2007 年 12 月 8 日、早稲田大学

[図書] (計 1 件)

- ① 田中比呂志、研文出版、『近代中国の政治統合と地域社会—立憲・地方自治・

地域エリート』、2010、436 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 比呂志 (TANAKA HIROSHI)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：90269572

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：